

第2回検討会議における議論のポイント

スマイルビルの譲渡に向けた姿勢について

- ・再開発ビルとして、公的空間も作りつつ運営を進めてきたが、キーテナントが抜けたことでバランスが崩れ、回らなくなった。そこで誰が責任をとるのかということについては、単に誰が負担するのかという話ではない。
- ・行政があつた施設をどのような位置づけの下、支援してきたのかを明確にし、そこで次の展開としてどういった形で再生するのかを打ち出していく必要がある。
- ・新たな運営体制として、当面は古いビルを動かしているノウハウを持っている方が新しいビルを運営する必要があり、検討会議の役割が求められるのはその後だろう。

駅前を含む中心市街地全体のまちづくりのビジョンづくりの必要性

- ・権利に係る重い話とまちづくりの理想論的な部分は相いれないのかもしれないが、この検討会議でそれを構築しないことには、矢面に立つ人たちが受けて立つことはできないだろう。
- ・大規模商業施設をまた追従するよりは若者たちが集えるようなわくわく面白ビルのようなものになった方が良くと思う。
- ・大まかな話であってもよいから、現在の各主体から何かしらのビジョンが見えないことには、この委員会だけではすべてのストーリーを構築することは難しい。
- ・この委員会で砂上の楼閣を作っても仕方がない。今の状況をうまく生かして、他の組織に働きかけることも必要なのではないか。

スマイルビルの活用に関する情報発信の手続きについて

- ・中間報告として経済建設常任委員会の中で報告することとしている。その中では委員会概要及びアンケート速報等の現状と今後の検討の進め方についてお知らせしたい。
- ・市民会議や中活協等へ議論を広げる必要性もある。
- ・相手の弁護士は特別清算に向かいたいという意向を聞いている。地権者への説明を経て市の方に要請書を出したいという話もしている。マスコミにも情報はいくだろうし、滝川市としてもその対応を検討していく必要がある。

既存組織との連携・ビジョンの共有化について

- ・中活を推進すべき中活協も、シナリオを受け取って連携していく必要がある。事務局が考えても何の梯子もない状況では何も動かない。当事者意識を持ってもらう必要があるだろう。
- ・岩見沢と滝川で決定的に違うのは、一体で何か動かしていこうという機運がないこと。
- ・高林の今後についても同時に考える必要があり、あそこを潰してもよいということであれば、スマイルビルの方に集約化する可能性もあるのではないだろうか。